セズ。茲ニ於テ全手術面ノ唇舌側ヨリ「ヨードホルムガーゼ」ヲ用ヒテ指頭壓迫止血法ヲ行ヒ、同時ニ「トロムボーゲン」10c.cヲ皮下注射シ、壓迫止血法ヲ約一時間持續シタルモ本例ノ如キハ手術創面ノ廣キタメ、全面ノ壓迫不可能ノタメ處々ヨリ少量ノ出血ヲ見タリ。然シ壓迫中ハ稍々止血シタル感アリタルモ、壓迫ヲ除ク時ハ再び甚シク出血シ全ク出血状態輕減セズ。因テ更ラニ「クロナトール」10c.c 及ビ2%「クロールカルチウム」20c.cノ靜脈内注射ヲ行ヒ、「アドレナリン」浸漬「ガーゼ」ヲ創面ニ壓抵シテ其ノ上ニ消毒「ガーゼ」ヲ置キ、約五時間強ク持續的ニ壓迫止血法ヲ行ヒタルニ漸ク全ク止血シタリ。

3 總 括

此レヲ總括スルニ本例ノ如キハ寧ロ稀ニ見ル激シキ後出血デアリ、止血ニ困難ナリシ臨牀例デアアルガ、私ハ前述ノ如キ出血處置ノ結果局所「アドレナリン・ガーゼ」壓迫止血法ノ持續ガ止血ノ最モ効果的役割ヲ演ジタル如キ感じヲ深クスルモノデアアル。

癒合齒ノ根管状態ニツキテ

九州齒科醫學專門學校附屬醫院(院長 沖野教授)
保存部

村 上 豊 秋

Aus der Konservierenden Abteilung der Zahnärztlichen Hochschule
zu Fukuoka. (Leiter: Prof. Setsuso Okino.)

Ueber den Wurzelkanalzustand eines verschmolzenen Zahnes.

Von

Dr. Toyoaki Murakami.

癒合齒ハ吾人ガ臨床上時折發見スル處ノ二齒以上ノ齒牙ガ明ラカニ癒着セリト見做サレタルモノニシテ、其發生原因及ビ其ノ状態ニツキテハ種々ナル學說アリ。之等ハ先天性ニ或ハ後天性ニ發生セルモノト言ハレテ居リ、之等ノ場合ニ於テモ亦種々ナル状態ニ區別サレテ居ル様デアアル。今割合ニ稀ナル癒合齒ヲ手ニ入レタノデ之ガ形態及根管状態ニツキテX線像及透明標本ニヨリ報告セントス。

今報告セントスル癒合齒ハ出所不明ナル爲患者ノ口腔状態齒牙發生部位、發生状態性別年齢等モ全ク不明ナルモ、其ノ咬頭及齒根ノ状態ニ依リ推測スルニ上顎左側ノ第二大臼齒ト判定サル、様ニ思フ。

齒牙ヲ外部ヨリ見ルト頰側ニ於テ近心頰側根ト小白齒様ノ形態ヲナセル齒牙ノ齒冠及ビ

齒根ガ全ク癒合セリ。其ノ小白齒様ノ癒合齒ハ頰側咬頭ヲ近心ニ有シ他ヲ遠心ニ有セリ。近心ニ於テ根ト根トノ癒合面ハ平坦ナルモ、ヨク注意シテ見ルト小溝ニテ根ト根ノ中央部迄境界線トナツテ現レテ居ル遠心ニ於テハ其ノ境界ハ明瞭ナリ、之等癒合根ト遠心ノ頰側根トノ關係ハ齒根ノ部分ニテ破折セルタメ不明ナルモ、其ノ破折部ト癒合ノ境界ヲ示ス溝ノ部分ニ珙瑯質瘤ヲ認ム、口蓋根モ亦根ノト思ハル、部分デ破折シテ關係不明ナリ、本齒ハ咬頭及ビ近心隣接面ニ於テ若干ノ磨耗ヲ見遠心ノ隣接面ニハ其ノ中央部ガ齶蝕トナル。

齒牙ノ概形ヲ計ルニ齒頸線ヨリ頰側咬頭頂迄 4.0m.m. 根端迄 15.0m.m. 又癒合齒ノ齒頸線ヨリ根端迄ノ長サハ 13.0m.m. デ舌側咬頭マデ 3.0m.m. 頰側咬頭マデハ 7.0m.m. ナリ。本齒ハ近遠心的ノ長サハ 9.0m.m. デ頰舌的ニ 11.0m.m. ニシテ癒合齒ハ近遠心的 4.0m.m. 頰舌的ニ 5.0m.m. ナリ。

之ヲX線ニ撮影検査スルニ本齒根ノ近心頰側根ハ扁平デ癒合根ハ圓形ニ見エ、根端ニ於テ合致ス、髓腔部ハ不明ナリ。

透明標本ニ依リ檢スルニX線ニ依ルガ如ク其ノ近心頰側根ハ扁平デアツテ、癒合齒々冠部ニ相當スル齒冠部髓腔ハ明瞭ニシテ根管ハ圓形ナリ、根管ノ中央部ニ於テ一寸分離シ根端ニ於テ全ク癒着シ髓腔モ亦癒着相通ズル如ク見ラル。

神経痛様疼痛ヲ誘起セシ 埋伏(逆生)齒ノ一例

九州齒科醫學專門學校附屬醫院(院長 沖野教授)
保存部

宮崎 三雄

Aus der Konservierenden Abteilung der Zahnärztlichen Hochschule
zu Fukuoka. (Leiter: Prof. Setsuso Okino.)

Ein Fall von einem retinierten Zahn, der neuralgieähnlichen
Schmerzen hervorgerufen hat.

Von

Dr. Mitsuo Miyasaki.

齒牙逆生ノ原因論ニ關シテハ諸研究者ノ報告ガ多クアルガ大體次ノ如ク論ゼラレテキル。

1. 佝僂病、先天性蠟毒ノ如キ體質病、猩紅熱麻疹ノ如キ急性傳染病、及ビ壞血病ノ如キ營養障害等ノ全身病
2. 遺傳的影響及ビ先天性畸形
3. 出齦スベキ場所ノ狹窄サル、コト